

「人間はみんな弱いけど夢は必ずかなうんだ 瞳の奥に眠りかけたくじけない心」(『僕の右手』THE BLUE HEARTS / 詞：甲本ヒロト)。これは、私の好きな曲の歌詞です。「人間はみんな弱い」というのは浄土教の人間観にぴったりと合致します。

お釈迦さまの在世から長い時間が経過し、教えは残っていても正しく修行する者やさとりを聞く者がいない時代を末法まっぽうといい、苦しみや悩みなどの煩惱ぼんごを捨てきれない人々を凡夫ぼんぷといいます。浄土教では、自身が末法を生きる

上人も大切なお浄土へまいる身を自分で育み、もてなさないとい仰せです。弱い自分を認めることと同様にさまざまな悩みを持つ他者を認めることも大切です。

皆が弱い人間(凡夫)という視点で、自分と違う境遇の人や、それぞれの理由で悩みや苦しみを抱えている人を認め、自分を育みもてなすように、他者も育みもてなすことが大切です。法然上人が自身の著書に引用された『西方要決よきけつ』には念仏者のふるまいについて、「自分と違う(境遇や信仰を持つ)人もただ深く敬いなさい」「危ないときに

法然上人

いつも立派でなくいい



Forgive yourself for being imperfect.

揮毫 大本山金戒光明寺
第75世法主 久米慶勝台下

凡夫であり、その弱さを受け入れ、お念仏をとなえることで阿弥陀さまに救われる存在であると自覚することが大事であるといえましょう。宗祖・法然上人が「一枚起請文いちまいきしょうもん」でお示しになられた「智者ちしやのふるまいをせずして」とは、この凡夫の自覚を指します。

さて、今月の標題は、「いつも立派でなくいい」です。常に自らを戒めて、善い行いを心がけるのは、仏教徒として正しいあり方です。

しかし、立派ではない弱い自分を損なうほど鞭打つことや、自分で自分を否定してしまうことは禁物です。法然

助け合う修行仲間を大切にしない」と説かれています。

ところで、私自身を顧みれば、近頃は葬儀や法事などで住職に代わり、導師を務めさせていたたく機会が増えました。私なんぞでという申し訳なさから、精一杯やらねばという使命感で務めております。毎朝のお勤めでは、自分自身よくやっているか、自問自答の時間です。至らないこともあります。凡夫ですから。その分、たくさん南無阿弥陀仏を。そのように過ごしております。

(東京都港区 梅窓院 中島真紹)